

各 位

2011 年 7 月 26 日

オリックス株式会社  
(コード番号:8591)

## 2012年3月期 第1四半期連結決算(4月～6月) 当期純利益は前年同期比44%増の237億円

2012年3月期第1四半期（2011年4月1日～2011年6月30日）の米国会計基準連結決算における営業収益は前年同期比6%増の2,439億円、税引前当期純利益は同60%増の392億円、当期純利益は同44%増の237億円となりました。なお、当期純利益は、通期の連結業績予想775億円に対しておよそ31%の進捗となりました。

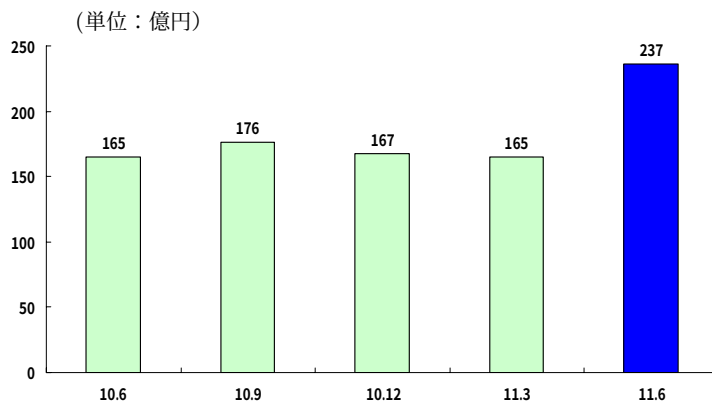
### ■ 主な経営指標の推移

|           | 2010.4-6 | 2011.4-6 | 増減率 |
|-----------|----------|----------|-----|
| 営業収益      | 2,295 億円 | 2,439 億円 | 6%  |
| 税引前当期純利益  | 245 億円   | 392 億円   | 60% |
| 当期純利益 (※) | 165 億円   | 237 億円   | 44% |

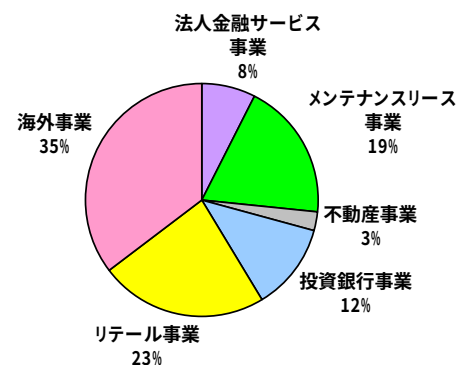
|         | 2011.3    | 2011.6    | 増減率 |
|---------|-----------|-----------|-----|
| 総資産     | 85,816 億円 | 84,201 億円 | ▲2% |
| セグメント資産 | 61,428 億円 | 60,407 億円 | ▲2% |
| 株主資本    | 13,193 億円 | 13,280 億円 | 1%  |
| 株主資本比率  | 15.4%     | 15.8%     | —   |

(※)「当期純利益」は、決算短信などの財務諸表で記載している「当社株主に帰属する四半期当期純利益」と同じです。

### 『当期純利益（四半期）の推移』



### 『当第1四半期のセグメント利益内訳』



## ■ 各セグメントの業績概要（2011年4月1日～2011年6月30日）

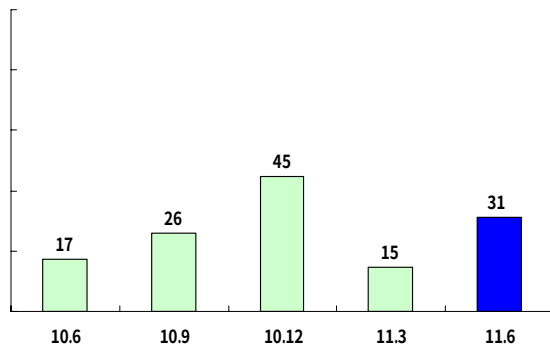
当四半期は、全セグメントにおいて黒字を計上し、前年同期と比較すると、「不動産事業部門」は横ばいながら、他のセグメントは全て増益となりました。

「海外事業部門」が引き続き好調に推移するとともに、「メンテナンスリース事業部門」「リテール事業部門」は順調に推移しました。また、「法人金融サービス事業部門」「投資銀行事業部門」は前年同期比で大幅な増益となりました。

### 【法人金融サービス事業部門】

融資、リース、金融商品販売などの手数料ビジネス、環境関連ビジネス

＜四半期セグメント利益＞(単位：億円)

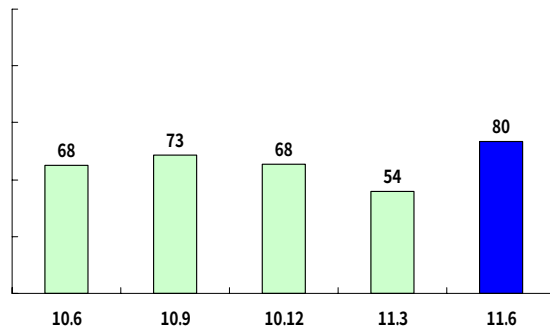


- ・「金融＋サービス」化が進み増収増益、収益性も向上。
- ・リース収益や手数料収益が堅調に推移し、環境関連ビジネスにおける収益などが増加。
- ・セグメント利益は、前年同期比 83%増の 31 億円を計上。

### 【メンテナンスリース事業部門】

自動車リース、レンタカー、カーシェアリング、測定機器・情報関連機器などのレンタルおよびリース

＜四半期セグメント利益＞(単位：億円)

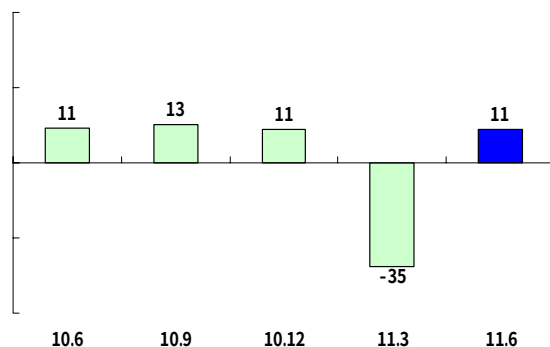


- ・企業のコスト削減ニーズなどに対応した高付加価値サービスを提供し、収益は高水準で安定。
- ・車両の売却を含む自動車関連収益が堅調に推移。
- ・セグメント利益は、前年同期比 19%増の 80 億円を計上。

### 【不動産事業部門】

オフィスビル・商業施設などの開発・賃貸、マンション分譲、ホテル・ゴルフ場・研修所などの運営、高齢者向け住宅の開発・運営、不動産投資法人（REIT）の資産運用・管理、不動産投資顧問、不動産ファイナンス

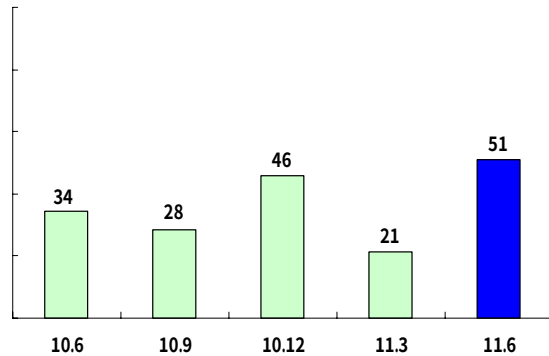
＜四半期セグメント利益＞(単位：億円)



- ・賃貸不動産売却益が減少したものの、不動産賃貸収益やマンション分譲収益が増加。
- ・ホテル、旅館、ゴルフ場などの運営事業は、一部で震災の影響を受けたものの安定的に収益を計上。
- ・セグメント利益は、前年同期並みの 11 億円を計上。

### 【投資銀行事業部門】

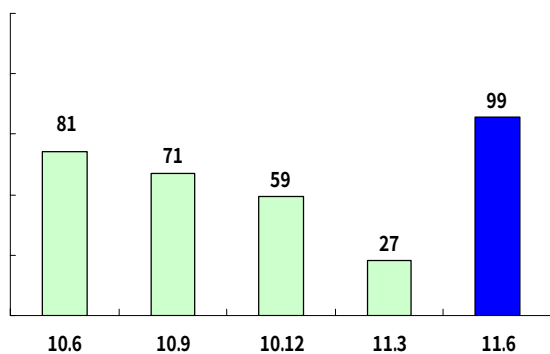
サービサー（債権回収）、プリンシパル・インベストメント、M&Aアドバイザー、ベンチャーキャピタル、証券業  
＜四半期セグメント利益＞（単位：億円）



- ・サービサー事業による回収や手数料収益が堅調に推移。
- ・投資先からの出資持分利益が増加。
- ・セグメント利益は、前年同期比 48%増の 51 億円を計上。

### 【リテール事業部門】

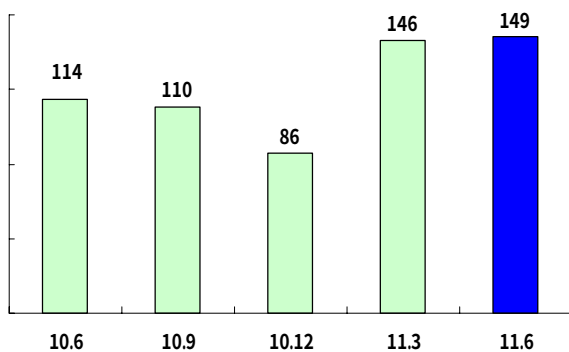
生命保険、銀行、カードローン  
＜四半期セグメント利益＞（単位：億円）



- ・生命保険事業は、運用損益が改善し、保険関連損益も保険契約数が増加したことにより順調に伸長。
- ・銀行事業は、法人融資、住宅ローンが伸長し、収益、利益ともに拡大。
- ・セグメント利益は、前年同期比 22%増の 99 億円を計上。

### 【海外事業部門】

リース、融資、債券投資、投資銀行、不動産関連、船舶・航空機関連  
＜四半期セグメント利益＞（単位：億円）



- ・アジアのリース収益が安定的に推移し、航空機関連収益が伸長したことに加え、米国において地方債の売却益が増加。
- ・昨年買収した米国のレッドキャピタル社（ローン・サービシング会社）、マリナー社（ファンド運営会社）が収益貢献。
- ・セグメント利益は、前年同期比 30%増の 149 億円を計上。

オリックスグループは、「常に新しい価値を創造し、進化しながら成長する」という経営方針のもと、多角化したポートフォリオによる事業展開を軸としながら、金融に専門性を結びつけた「金融＋サービス」事業をさらに加速化させるとともに、アジアなど新興国の成長を取り込むことで、収益力の強化を図ります。

詳細は、当社ホームページにて掲載の決算短信および決算補足資料をご覧ください。

URL : <http://www.orix.co.jp/grp/ir/settlement/>

以 上

＜本件に関するお問い合わせ先＞

広報部 池田・堀井／経営企画部 IR チーム 富永・竹村

TEL：03-5419-5102